

令和 5 年度

# 事業計画書

公益財団法人 馬事文化財団

# 目 次

I	根岸競馬記念公苑における事業	1
1	馬の博物館事業	1
(1)	馬に関する博物資料の展示	1
(2)	馬に関する博物資料の調査、研究	2
(3)	出版事業	2
(4)	馬に関する博物・図書資料の収集、保管	2
(5)	実物・画像博物資料の貸出	2
(6)	展示特別イベント	2
(7)	馬に関する講演会等	2
(8)	他館等との交流	3
(9)	その他の協力	3
2	馬展示事業	3
(1)	馬の展示	3
(2)	厩舎管理等	3
(3)	馬事イベントの開催と外部協力	3
(4)	春秋特別イベント	4
3	馬文化保存事業	4
(1)	馬事伝統行事保存事業	4
(2)	在来馬種保存事業	4
4	公苑の管理	4
II	J R A競馬博物館における事業	4
1	J R A競馬博物館事業	4
(1)	馬及び競馬に関する展示	4
(2)	馬の学び舎 ミュージアム・ホールでの展開	5
(3)	競馬に関する博物資料の調査、研究	6
(4)	出版事業	6
(5)	競馬に関する博物資料の収集、保管	6
(6)	馬に関する普及活動及び学習支援	6
2	来館者への案内業務及び博物館の管理	6
III	競馬振興会館（Gate J.）における事業	6
1	競馬振興会館事業	6
(1)	馬の文化及び競馬に関する展示と各種情報の発信	6
(2)	企画展示・イベントの実施	6
(3)	馬の文化及び競馬に関する各種映像の放映	7
IV	広報活動	7
V	J R A賞馬事文化賞候補作品の情報収集	7

## 令和5年度 事業計画

令和5年度においては、当財団の定款第4条の目的を達成するため、根岸競馬記念公苑・馬の博物館をはじめとする財団各施設等において効果的な展示、イベント等を行うとともに、それらを広く周知し、学術及び文化の発展に寄与します。

なお、各施設の運営に際しては、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、必要な感染防止策を講じ、慎重に展示やイベントの実施に努めます。

### I 根岸競馬記念公苑における事業

#### 1 馬の博物館事業

##### (1) 馬に関する博物資料の展示

馬事文化に関する知識の普及と強化を図るため、これまでに蓄積した馬に関する博物資料を、様々に工夫して展示し、鑑賞に供します。

春秋には特別展を行うほか、年間を通じて多様な内容のテーマ展を実施します。

##### ① 春季特別展「浮世絵美人と馬」(仮称)

江戸時代の人々にとって生活に欠かせない、身近で大切なパートナーであった馬は、浮世絵にしばしば描かれてきました。

一方、浮世絵の中でも女性を描いた作品は人気が高く、その生き生きとした表情や仕草、粋なファッションで観る者を魅了してきました。

本展では、浮世絵の様々な題材から、女性が登場・活躍する作品を「馬との関わり」という馬の博物館ならではの視点で取り上げることで、馬に関わる江戸から明治期の女性たちの文化・風俗を楽しんでいただく機会といたします。

##### ② 秋季特別展「戦国武将の馬と天下人」(仮称)

当館ではこれまで東国の戦国大名や天下人・織田信長や羽柴秀吉を取り上げ、馬を愛好し合戦や政治交渉に用いてきた武将たちの姿を紹介してきました。本展は、もう一人の天下人・徳川家康や、従来あまり知られてこなかった馬術に秀でた武将たちも取り上げます。また、戦国武将に仕えた鞍作りの武士や、新出資料から織田・徳川氏が交通インフラを整備していく様子もあわせて紹介する展示とします。

##### ③ フィナーレ展「うまはく所蔵優品選」

12月中旬から翌年1月最終日曜日まで、掉尾を飾るべく、これまで収集しないし寄贈されてきた所蔵品の中から選りすぐりの作品を一堂に会します。また、根岸競馬、馬の博物館誕生後の諸催事あるいは収蔵品を写真で紹介したり、イラスト等の装飾を施し、自由に撮影することが可能な記念撮影コーナーも設けます。

##### ④ テーマ展

『「馬のお世話のいまむかし」「季語・馬 四季の風景」「近代日本画の中の馬」「どこの馬の骨？直良信夫・林田重幸旧蔵コレクション公開展」「めでたい馬たち」「刀を装う馬たちー中川コレクションよりー』(展覧会名は

仮称)等、考古、歴史、民俗、美術といった分野のテーマを設けて展示を行います。

⑤ 常設展示

来館者の馬への理解が深まるように、収蔵品や体感機器・体験機を活用した効果的な展示を行います。

(2) 馬に関する博物資料の調査、研究

馬の文化について、自然科学(進化・品種等)、人文・社会科学(歴史、考古、民俗、美術工芸、馬術・乗馬、競馬等)の各分野において、広く文献収集・聴取・実地調査を行うとともに、調査結果の分析・研究を行います。

(3) 出版事業

馬の文化について、より一層の理解醸成を図るため、印刷物を刊行し、全国主要博物館、美術館、図書館、大学、JRA各施設及び競馬サークル各団体等に配布します。

- ① 特別展等については、来館者の多様な関心に応じて、展示内容の理解が深まるように展示内容の紹介を中心とした図録・ポスター・チラシ等を作製します。
- ② 馬に関する博物資料の調査、研究その他の活動の成果は『馬の博物館研究紀要』第24号を刊行し発表します。

(4) 馬に関する博物・図書資料の収集、保管

馬に関する博物・図書資料を収集し、文化財保護の基本的観点から、保存環境を整え、将来へ継承する保管、品質維持に努めます。

- ① 収集した博物・図書資料については、「資料管理システム」に情報を逐次入力し、効率的な情報管理を図るとともに、文化庁が開始した文化遺産オンラインデータベースを活用することで、所蔵品情報のオープン化に努めます。
- ② 博物館法改正(令和5年4月施行予定)に伴い、デジタル・アーカイブが博物館の事業に新たに加えられるため、所蔵品のデジタル化を迅速に進めていきます。

(5) 実物・画像博物資料の貸出

全国の博物館・美術館における馬の文化にかかわる展示・出版・映像等の企画に協力し、内容の向上に寄与するとともに馬の博物館所蔵品が広く周知されることを目指します。

(6) 展示特別イベント

展示に合わせた各分野のギャラリートーク・講演会のほか、年間を通じて各種のワークショップを開催します。

(7) 馬に関する講演会等

① 講演会の開催

JRAや競馬サークル各団体のみならず、全国の博物館・美術館や公共機

関等の要請に応じ、馬文化及び競馬の歴史等について展示解説・講義等を実施します。

② 学芸員課程学生の博物館実習

大学の学芸員課程の依頼に応じ、実習生を受け入れて指導を行うとともに、獣医・動物看護関連学校の研修、見学も積極的に受け入れます。

(8) 他館等との交流

① 調査研究活動の成果発表により、広く学術の発展に貢献するとともに、学会・研究プロジェクト等に参加し、研究交流を促進します。

② 日本博物館協会、全国美術館会議、神奈川県博物館協会等の行う会議、研究会、専門部会に参加するとともに、各地の博物館、教育機関と資料の相互活用及び情報交換を行います。

(9) その他の協力

① 行政・学校教育機関や地域自治会等との連携

横浜市及び教育委員会、近隣の小・中学校や地元自治会・町内会、隣接する根岸森林公園等の協力を得て、遠足・社会見学・職場体験やレクリエーション等の機会を定期的に提供してまいります。

小・中・高校生に対しては、年間を通じて土曜日を無料入館日とし、学校教育と合致した学習プログラムを用意し、体験学習・生活学習に供します。

② 馬と馬文化に関する普及活動及び学習支援

博物館機能と展示用馬を活用し、展示内容の充実やふれあいイベントの実施等、馬と馬文化に関する多様な体験や学習ができる機会を設けます。また、日本在来馬に関する知識の普及に励み、その保護活動に寄与します。さらに、来苑・来館者がリピーター・サポーターとして継続的に生涯学習を行うことができる拠点となるように努めます。

## 2 馬展示事業

### (1) 馬の展示

身近に接する機会が少なくなっている馬について、博物館事業の一環として、ポニーセンターにて実馬を繋養展示します。

① 展示用馬は、多品種の馬を繋養することとし、放牧や騎乗等の様子を紹介します。

② 貴重な日本在来馬については、保存活動の一助となるような展示・活用に努めます。

### (2) 厩舎管理等

展示用馬の健康管理及び事故防止に万全を期すとともに、厩舎内外の衛生管理並びに来苑者への快適な展示環境の提供に努めます。

### (3) 馬事イベントの開催と外部協力

馬事普及活動の一環として、展示用馬を活用した馬事関連イベントを実施するとともに、広く外部団体等の活動やイベント等に展示用馬を使った協力

を行います。

- ① 来苑者を対象とした体験乗馬及び馬車の試乗会等の他、にんじんを馬に与えるイベント（「にんじんタイム」）を行い、実馬にふれあえる機会を定期的に設けます。

この他、桜が見頃を迎える時期や夏休みの期間等に特別イベントを企画し、来苑者増を図ります。

- ② J R A 及び競馬サークル各団体のほか、教育機関・公共機関が主催するイベント等において、展示用馬の出張等の協力を行い、馬の魅力を広めるとともに当財団・両博物館等の普及・展示内容やイベントの周知に努めます。
- ③ 根岸愛馬スポーツ少年団の要請に応じて、安全を確保した上で、適切な指導を行います。

#### (4) 春秋特別イベント

馬事伝統芸能やアトラクションホースの演技等を中心とした春・秋特別イベントを実施します。

- ① 春季は「馬とあそぼうこどもの日」を5月5日(金・祝)に（もしくはゴールデンウィーク期間中に「馬とあそぼうウィーク」）開催し、より多くの来苑者に馬の魅力を伝え馬事普及に務めます。
- ② 秋季は「馬とのつどい2023」を11月上旬に開催します。

なお、両イベントとも行政や近隣地域の団体との十分な連携により周知等に努め、盛り上げを図ります。

### 3 馬文化保存事業

#### (1) 馬事伝統行事保存事業

馬に因んだ日本の伝統行事や祭事の保存・振興を図るため、馬事伝統行事を実施する団体に対して助成を行います。

#### (2) 在来馬種保存事業

公益社団法人日本馬事協会を通じて、日本在来馬8種の保存を図るための事業を実施する団体に対して助成を行います。

### 4 公苑の管理

来苑者の憩いの場として、また、近隣の児童・生徒等の教育や生涯学習の場として、広く利活用されるよう、年間を通じて計画的に種々の草花や樹木を整備し、自然環境の保持に努めるとともに、案内看板や遊具・備品等の適切な改善に努めます。

## II J R A 競馬博物館における事業

### 1 J R A 競馬博物館事業

#### (1) 馬及び競馬に関する展示

令和5年度においては、引き続き各種展示やイベントにより競馬を文化の面から紹介し、競馬に対する知識と理解を深める場を提供します。また、来館者

に競馬の魅力を感じていただけるよう、各種の映像放映や体験型機器の整備・運用を効果的に実施します。

さらに、競馬専門の博物館として名馬たちの足跡や競馬の歴史等に関わる資料の収集・保管を継続します。

近年、次世代人材の育成が競馬サークル全体の大きな課題となっていることから、競馬サークルへの就業促進あるいは低年齢層へのPRも念頭において、将来の競馬サークルの担い手となる低年齢層を含んだファミリー層に対する働きかけを積極的に実施します。また、各種PR活動により競馬博物館の認知度向上や新たな競馬ファン獲得を図ります。

- ① 春の特別展「旧競馬法制定 100 年記念安田伊左衛門と旧競馬法」(仮称)  
1923年にいわゆる「旧競馬法」が成立されてから100年を迎えることを記念して「日本競馬の父」と称される安田伊左衛門の功績を紹介するとともに「旧競馬法」について解説いたします。
- ② 企画展「日本ダービー90回記念・東京競馬場開場 90 年記念展」  
競馬の祭典と呼ばれる日本ダービーが90回の節目を迎え、併せて東京競馬場も開場から90年を迎えることを記念した企画展を特別展示室にて開催します。
- ③ 秋の特別展「白毛図鑑～純白のサラブレッド～」(仮称)  
世界でも唯一無二の白毛馬のGIホースが誕生したこともあり、希少性と純白の馬体で注目が高まっている白毛馬について、その特徴や活躍馬を紹介いたします。
- ④ その他の展示  
展示室3やエントランスホール等で下記の展示を実施します。
  - ・「2022年度JRA賞展」
  - ・「新人騎手(第39期生)紹介展」
  - ・「第90回日本ダービー優勝馬展」
  - ・「第43回ジャパンカップ優勝馬展」
- ⑤ 競馬及び馬に関する常設展示  
顕彰馬及び顕彰者、馬学や競馬のしくみ、日本と世界の競馬の歴史について資料やパネル説明等にて展示を行います。また「ライヴシアター」、「東京競馬場歴史絵巻」等により競馬や府中の歴史文化に触れていただきます。
- ⑥ 移動展示及び他団体主催展示への協力
  - ・JRA各施設及び競馬サークル各団体等の要請に応じて競馬に関する移動展示に協力します。
  - ・他の団体等が主催する馬及び馬の文化の普及に資する展示等について協力します。

## (2) 馬の学び舎 ミュージアム・ホールでの展開

- ① 150インチ中型映像装置で年間を通じて“アニメ馬物語”、“Horse Dreamer”を、また状況に応じて競馬文化あるいは競馬に関わる職業等を紹介するビデオを放映します。
- ② 次世代の競馬サークルへの就業促進に資することを目的に、子供たちに馬

にかかわる仕事をアピールするために「馬にかかわるいろいろなおしごと  
(3)～獣医師」を展示します。

③「GateJ. トークショー」や競馬と馬に関わる講義等を開催します。

(3) **競馬に関する博物資料の調査、研究**

展示に必要な文献収集・聴取・実地調査を行います。

(4) **出版事業**

馬及び競馬文化について、より一層の理解醸成を図るため、各種印刷物の刊行及び映像の制作を行い、広く配布・放映します。

(5) **競馬に関する博物資料の収集、保管**

競馬に関する国内外の博物資料を調査し、体系的に収集、保管に努めます。収集した博物資料については、「資料管理システム」に情報を逐次入力し、効率的な情報管理を図ります。

(6) **馬に関する普及活動及び学習支援**

競馬開催日及び平日に東京競馬場乗馬センターと連携し、学校教育・課外授業等のニーズに応え、馬及び馬事文化に関する多様な体験や学習ができる機会を設け、来館を促進します。

**2 来館者への案内業務及び博物館の管理**

来館者に競馬の魅力を感じていただくため、館内に展示物や競馬に関する知識等を習得したインストラクターを配置し、来館者へのホスピタリティ意識を持って館内案内や体験機器の説明等を行います。また、来館者の安全・安心を確保し、展示資料等の適切な維持管理のため、警備員を配置します。

体験機器については、安全かつ円滑な運用を図るため、点検等を定期的に行います。資料等については、適切な保存を図るため、定期的な燻蒸を実施するなど、博物館の環境衛生管理に努めます。

**III 競馬振興会館（Gate J.）における事業**

**1 競馬振興会館事業**

(1) **馬の文化及び競馬に関する展示と各種情報の発信**

GateJ. では年間を通じて常設展示及び企画展示により、馬と競馬の魅力をわかりやすく紹介し、馬の文化及び競馬に関する知識の普及を図ります。

また、館内においては馬の博物館・JRA 競馬博物館の事業内容等の情報も積極的に発信し、来館促進の一助とします。

(2) **企画展示・イベントの実施**

館内のパネル展示コーナーを活用し、GI レースの優勝馬や騎手の紹介等、時機に応じたテーマで企画展示を開催します。

また、Gate J. 東京のセミナールームでは、グリーンチャンネル番組の公開収録等を行い、来場者の興味・関心を喚起する一助とします。

(3) **馬の文化及び競馬に関する各種映像の放映**

J R Aや当財団でこれまでに制作した映像を最大限に活用し、それらを Gate J. の大型モニターやグリーンチャンネル等で放映することにより、広く馬の文化に関する知識の普及と競馬の健全な発展に努めます。

**IV 広報活動**

馬の博物館と J R A 競馬博物館及び Gate J. の各種情報を告知するため、財団ホームページ、Facebook、Twitter、J R A ホームページ及び各種配布物（ポスター・チラシ・パンフレット等）を活用する他、ターフビジョン・場内 I T V、グリーンチャンネル等での告知を図ります。

また、行政や近隣の公共機関・交通機関及び（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー（観光誘致担当）等の観光団体や博物館・美術館と連携し、広報活動を行うとともに、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等、各媒体に対する情報提供や取材協力を行います。

**V J R A 賞馬事文化賞候補作品の情報収集**

J R A から業務委託を受け、海外情報も含めた J R A 賞馬事文化賞にかかわる情報の収集等を行います。